



だより

— つながれ ひろがれ —

第156号

特定非営利活動法人

環境パートナーシップちば

TEL: 090-8116-4633

E-mail: info@kanpachiba.com

https://kanpachiba.com/

開催報告

SDGs・ESD 公開フォーラム

SDGs・ESD をより広げ、持続可能な社会づくりに向けて実行しましょう！

開催日：2024年3月9日（日）

14:30~16:50

会場：千葉市生涯学習センター 小ホール

当会は、地球環境基金の助成金事業を2018年度~2023年度の6年間にわたり、展開してきました。2018年からの3年間は「SDGsを達成するためのESD担い手育成事業」、2021年からは「SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点づくり」です。終了に当たり、これまでの事業を振り返り、これからに向けてを考えるフォーラムを開催しました。

まず、6年間の事業を振り返ったあと、6年間ファシリテーターとして関わっていただいた石井雅章氏（神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部教授）の「6年間の振り返り 次のステップを考える」の講演で、「6年間たくさんの事業をやりましたね。成果として、具体的な場所と経験に根付いた活動をしているお互いを知り、連携・協働できる状態に近づいたこと。今後へ向けては、企業へのアピール、学校の総合的な探求の時間などと繋ぐ事も必要」とお話しいただきました。

パネルディスカッションに入る前に、山口俊也氏（プロデザインスタジオ）から南房総市や千葉市の海岸でのGOGOボランティア活動、横山清美氏（浦安水辺の会）から浦安三番瀬での活動を聞きました。島田幸子氏（関東ESD活動支援センター）には、関東地域の旗振り役としてのSDGs・ESDへの取り組みについてお聞きしました。

パネルディスカッションでは、各団体が活動を共有して情報が見えるような展開が必要。企業へのPR活動も必要。活動するには経費も必要なので、連携できる機会を見つける。等などいろいろ前向きな意見やアドバイスがありました。

最後に「環境パートナーシップちばからの提言」をお伝えし、これまでの感謝と共に、今後も、拠点の皆さまと一緒に作っていきましょうとフォーラムを閉めました。



開催報告

第3回コア拠点づくり会議

開催日：2024年3月9日（日）

13:00~14:00

会場：千葉市生涯学習センター 小ホール

参加者：18名（14団体）

ファシリテーター：石井雅章氏（神田外語大学）

コア拠点会議は、14:30からのSDGs・ESD公開フォーラムの前に開催しました。

協議時間が少ないこともあり、当会からこれまでの活動を持続して行く具体的な事業などを挙げて、ご意見を頂き、後半の公開フォーラムで当会の提言としました。提言は次の通りです。

1. ESD地域リーダーの活躍の場を応援する

①活動報告を「だより」に掲載

②困ったことの相談に乗り、解決の糸口を見つ

ける協力をする

③活動の集客を応援する（HPやSNSで拡散）

④ESD地域リーダーの活動が地域のSDGsにつながっていることを明確にして、だよりに掲載する。

2. SDGs拠点が見える形の応援をする

①SDGsユース活動発表交流会の開催（地域の団体・高校生向け）10月

②SDGs学生フォーラムの開催 2月

③SDGs公開フォーラムの開催 3月

3. 地域拠点会議の応援をする

①オンライン会議場の提供

②拠点と拠点を繋ぐオンライン会議場の提供

③拠点会議の報告をHPに掲載

(文責：桑波田 和子)

SDGs 学生フォーラム in ちば 開催報告

SDGs 学生フォーラム in ちば企画リーダー 中村駿太（りこボラ!）

2024年2月18日、千葉県教育会館401会議室にて環境パートナーシップちばが主催し、学生団体おりがみ、りこボラ!の協力のもと、SDGs学生フォーラム in ちばを開催いたしました。今年で3回目の開催となるフォーラムのテーマは「SDGsでつながる学生ネットワークを作ろう～ボランティアを日常に～」でした。当日はオンライン参加や高校生も含めて7団体にご参加いただきました。

本フォーラムは2部構成で開催し、第1部では大学生6団体、高校生1団体それぞれの団体の活動についてスライドなどを用いて紹介し合いました。また、第2部は会場参加者のみで、4つのグループに分かれてお互いの活動紹介や意見交換を行いました。短時間ではありましたが、学生団体同士のつながりも生まれ、非常に有意義な時間と

なりました。

環境問題や生活水準の格差への関心が高まる中、SDGsという目標を達成するべく、様々な活動を実施している学生団体の貢献や学生団体どうしの協力はとても重要なことと考えており、このフォーラムがSDGs達成への一助になれば幸いです。今年は開催に向けての準備期間が短く、当日もおよそ2時間という短い時間での開催となり、もう少し長くお話をしたかったというお声もいただきました。満足していただけたというお声も多くいただきましたが、来年は反省点を踏まえてこのフォーラムをよりよい形で開催できるよう、準備を進めていきたいと考えております。

最後になりますが、この場をお借りして開催に携わって下さった皆さま、そして当日ご参加下さった皆さまに深く感謝いたします。

韓国高校生との交流会

（一社）環境パートナーシップ会議副代表理事の星野智子さんからの紹介で、韓国からの高校生と私たち環パちばとの交流会を、1月22日（月）に幕張メッセの204会議室にて行いました。

高校生は環境分野のコンテストの上位入賞グループで、コーディネーターや引率の先生を含めた総勢20名ほどが、観光バスに乗って登場されました。いろいろと視察先を予定されていて、私たちとの交流会も1時間。ほぼ時間通りに、次の会場に向かわれる、というタイトなスケジュールでした。引率者は、韓国農村と自治研究所の鄭萬哲さんという方で、日本に留学経験がおりで通訳もされました。

まず、環パの活動を紹介。エコメッセを事務局として運営していることや、最近力を入れている若者との事業などです。次に、高校生の皆さんからコンテストで出したアイデアを紹介してもらい

ました。スマホの書類（ペーパーレス）で資源を節約、節水のための蛇口を考案、環境に配慮した商品の評価、インターネットを省エネで使う方法、アプリケーションの利用など、若者らしいアイデア提案でした。

若い時の海外経験は、有意義なものと思います。将来、彼らが自国で、また日本との技術や人的交流、いや、世界的な色々な場面で貢献される未来が必ず来る、そんな嬉しい予感を持ちました。

韓国ではプラスチックごみ削減のため、使い捨てのアメニティの無償提供を禁止することが2022年から始まっているようですが、それに合わせてか、柄が竹の歯ブラシのセットと、韓国のりをお土産にいただきました。家でさっそく竹の歯ブラシを使っていますが、柄を持った感じも歯をみがくブラシの感じもソフトでなかなか快適でした。（文責：中村 明子）



露木しいな講演会「Z世代の環境活動家が考える地球の今」 学生団体「おりがみ」 中村 拓雅

日時：2024年2月18日（日）14：00～17：00

場所：千葉県教育会館 604 会議室

主催：千葉県環境学習等推進連絡会議（事務局/千葉県環境生活部循環型社会推進課）

全国の小中高学生に環境講演をして回る環境活動家である露木しいなさんによる「Z世代の環境活動家が考える地球の今」の講演を聴講しました。

今回は、インドネシアバリ島にあるグリーンスクール（高校）で学んだ露木さんが、そこで身につけた環境課題への取り組み方、妹さんのアレルギーをきっかけにオーガニック化粧品の開発に取り組む、ショート動画を作成しての発信など、スケールの大きなお話をして頂きました。またお話を通して、環境課題に対して無関心な層に環境課題を「自分ごと」として捉えてもらうことが重要だということ、改めて認識することができました。たくさんお話をしていただいた中で、ある中学

校での資源の無駄遣いに対する自発的な取り組みのお話がとても印象に残りました。露木さんの環境啓発講演が、学生が「自分ごと」として環境課題を捉えて行動していくきっかけになっているのだと気づき、大切な役割を担っているのだと感じました。Z世代の学生の心を動かすことで、環境活動家のいない世界を作るという挑戦とその成果は、同じZ世代である露木さんの声があったからこそだと思えます。

そして、私自身も環境保全ボランティアの企画運営を行っているため、「人の心を動かす」ことに焦点をあてたボランティアを作っていきたいと思うことができました。

若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト受賞者活動報告会 「若者(あなた)の発想(ひらめき)で環境(これから)を繋げ」

2月18日の「露木しいな 講演会」（主催：千葉県）終了後、同じ会場で「受賞者活動報告会」を開催しました。本事業を受託している当会の会員土谷悠太が進行を担当し、講演会の参加者（高校・大学生、NPOなど）が引き続き参加してくださいました。

2023年10月のアイデアコンテストの受賞団体が活動するためのスタートアップ会議を12月に開催しました。今回は、活動の準備ができ、これから本活動を始めていく段階での報告となりました。

受賞3団体からは、次のような報告がありました。

- ◆「蘇れ！耕作放棄地 ～日本茜に託す私たちの想い～」(成田日本茜復活チーム(県立成田西陵高校))：受賞後地域のマスコミ取材など広く話題に上がった。染色技術など先進地や専門家から学ぶ機会を予定している。春から本格的に茜の栽培などを開始する。
- ◆「里山活用コミュニティ「グリーンベース」」(学生団体グリーンベース)：活動に参加する学生を募集するためにも、まず主担当者で活動場所の「おとすれ山の会」に行き、関係団体との打ち合わせも行い、3月には里山イベントをスタートする。
- ◆「地域の特徴を活かした自然体験型学習プロゲ

ラムの画策」(千葉大NE SO)：地域の支援団体と連携し、小学生を対象にプログラム体験をスタートする準備を始めている。

会場からは、たくさんの質問や応援がありました。最後にアイデアコンテスト審査委員関根 久仁子氏から「目的に向かいトライしてください。応援しています！」とメッセージをいただき、報告会を終了しました。（文責：桑波田 和子）

千葉県環境学習等に関する交流・協働の場づくり事業

露木しいな 講演会 参加費 無料

「Z世代の環境活動家が考える地球の今」

&

若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト

受賞者活動報告会

あなた ひらめき これから
「若者の発想で環境を繋げ」

日時 **2024年2月18日(日)** 申込 ※2/16まで
14:00～17:00 (または電子申込サービス)

会場 **千葉県教育会館 604 会議室**
(千葉市中央区中央4-13-10)

定員 **会場50名 オンライン500名** ※いずれも先着順

第1部 14:00～15:20 **露木しいな 講演会**

第2部 15:30～17:00 **受賞者活動報告会**

主催/お問い合わせ
千葉県環境学習等推進連絡会議 TEL 043-223-4144
(事務局/千葉県環境生活部循環型社会推進課) MAIL e-haiki@m.pref.chiba.lg.jp

申込フォームURL
https://apply.e-tumo.jp/pref-chiba-u/offer/offerList_detail?tempSeq=27178

ESD 地域リーダー研修会報告

地球環境基金助成「SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点づくり」事業におけるESD地域リーダー研修会を、2024年2月3・4日（土日）に南房総市大房岬自然の家で1泊2日で開催しました。当初11日を予定していましたが、会場や関わる人などの調整ができず、真冬の南房総での研修会となりました。

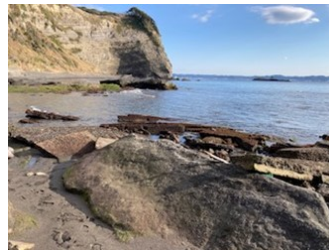
1日目は、NPO法人千葉自然学校が活動拠点の1つとしている大房岬を、自然の家所長の神保さまがコンパクトにまとめてご案内くださいました。お馴染み磯・眺望抜群の芝生園地・こんなところに要塞跡地・係船場から砂浜・樹が大きくなった展望台・まだまだ湧いてる池の水が海へと・震災からの炭焼活動場所など、好天のワンダーランド巡りとなりました。

荒天となった翌日は、自然の家小食堂にて、平野将人公認ファシリテーター（一般社団法人銀座環境会議）講師の指導により「2030 SDGs ゲーム」を体験しました。ゲームは個人の研修に十分寄与することが体験からわかり、成果のある研修となりました。ゲーム終了後のふりかえりも学びが多く、自分自身がファシリテーターになるには、

多くの研鑽が必要と感じたと皆さんも思われたかと思います。

ESD地域リーダー研修会終了後には、南拠点会議にも貴重な参加をさせていただき、集合場所の千葉駅前に夕方には到着解散しました。貸切バスでの往復では、研修の時間管理が難しいかと思えていましたが、往復ともスイスイで中身の濃い南房総での研修ができました。自然の家の神保さまや講師の平野さまに大変感謝でした。これで地域リーダーの皆さまのご参加が多ければ、良い形になるかと思いました。講師は、拠点づくりのメンバーが担っていただけることを考えると、次はどこで研修会ができるか楽しみです！

（文責：横山 清美）



開催報告

第2回 SDGs・ESD ちば南拠点の会

日時：2024年2月4日（日）

12:30~14:00

場所：大房岬少年自然の家（南総市）

出席：8名（7団体）スタッフ（2名）

内容：

ESD地域リーダー研修会を2月3日、4日の2日間、南房総市大房岬自然の家で行いました。丁度南拠点の会のお膝元でもあるので、急遽南拠点の皆さまに呼びかけて集まって頂きました。研修会の昼食時間を利用してのランチミーティングとなりました。

約1時間30分でしたが、久しぶりに合う人、新しく参加された人と、実情など共有しての有意義な時間となりました。

主な意見は下記になります。

- ・初めて参加された「ひらおかサステラス」は、袖ヶ浦市で活動している。市民上映会を開催し、多世代や、国籍が違う人との交流などの活動をしている。
- ・活動はコロナ前に少しは戻りつつあるが、学校が活動への参加等を減らしてきている傾向も見られる。
- ・地域で活動しているいろいろな団体との、ゆる

いネットワークができつつある。具体的には、定期的な活動でなくて必要があれば集まる。活動の分野も環境保全、街づくり、事業者など多様な人との繋がりを持ち、お互いに活かし合えるように持って行く。

- ・南房総市は2006年に7町村が合併して出来て18年になり、大分なじんでは来ているが、未だ過去の町民意識が残っているのもあるので、世代を超えた繋がりを持てるようにしたい。そこには若い人、高校生などが地域を繋ぐ役割を果たしてくれると期待している。

- ・世話人環境パートナーシップちばへ期待する事

として、南拠点で活動して情報を広く拡散する。活動の参考になるセミナーなど開催してもらいたい。



（文責：桑波田 和子）

プログラム公開体験会

「ESD 地域リーダープログラムを訪ねて」に参加しました！

2月25日(日)

体験内容「浦安三番瀬をもっと知りたい!」「親子初めてハゼ釣り教室」他

集合場所の千葉駅から貸し切りバスに乗り、浦安に向かいました。この日は小雨ではありませんでしたが風もあり、生憎のお天気でした。

最初の場所「三番瀬観察館」で、まず三番瀬の歴史や生き物についての説明を受けました。

前半のプログラムの案内者は「浦安三番瀬を大切に作る会」代表の今井さん、実際の釣り竿を見せてくださった横山郁夫さん、「親子初めてハゼ釣り教室」を始めた経緯などは横山清美さんでした。潮の満ち引き、なぜ夏にハゼなのか、三方を水辺に囲まれた浦安市民が水辺と親しむ機会を作るといふ思いなどを現地で聞くことができました。現地でその景色を見、その空気を吸いながらという心に残る貴重な体験となりました。

次にハゼ釣り教室の境川に連れて行ってもらい

ました。境川の水は、季節柄ということで澄んでいました。この川で、夏、親子が釣りを体験するのかと想像しながら、川をのぞき込みました。河津桜も咲く公園で3.11の遺構、地面から突き出たマンホールも見ました。

そして市民活動センターへ移動し、後半は「ファイバーリサイクル」の畑山さん、「温暖化防止うらやす」の川島さん、島野さん、「しろくまキッズ」の廣田さんから、それぞれのプログラムを紹介してもらいました。どれも「参加したい!」内容でした。

最後にリニューアルした「郷土博物館」を見学しました。そこでしっかりと浦安について学ぶことができました。

本日の登壇者はどなたからも深い「郷土愛」が感じられ、それが環境保全活動の共通のベースになっていると、理解しました。

(文責：中村 明子)

生命のみなもと・水と旅して 水マップをつくろう！

みらい seeds (椎津川流域を愛する会) 平野 なおみ

日時：2024年3月3日(日)

8:00~17:00

場所：椎津川(姉崎保健福祉センター)

参加人数：12名

《プログラム》

午前：導入、水の旅(源流から中流まで)

午後：水の旅(中流から河口まで)、振り返り

大地に降った雨は高いところから低いところへ大地を伝わって川に集まり、海へと流れていきます。どの場所も、どこかの川の流域(集水域)に属し、水でつながっています。都市で暮らしていると、生命の源である水のとつながりを意識しにくいですが、水のとつながり、水マップを体に刻み込むため、源流から河口まで旅してみよう!という企画です。

高い土地があり、それに囲まれるようにして土地がだんだん低くなっていき、最も低いところを川が流れます。最も高いところ、つまり尾根が「分水界」となり、降った雨の行方を左右に分けます。源流にバスで向かい、だんだん登りフラットになるところ、ここが分水界!という場所を体感。バスで中流まで下って、そこからは歩く水の旅です。

川が源流から河口へと流れていく中で「浸食」

「運搬」「堆積」の作用によって形成した様々な地形、山際の湧水点などを観察。川のせせらぎを聞きながら、お昼休憩をはさんで海の手前の河口干潟まで歩き切りました。ヨシ原が続く美しい河口干潟は、春の日差しに水面がきらきらして、うっとりする美しさでした。

都市の暮らしは、水のとつながりを感じにくいですが、延長7kmというサイズの椎津川は、それを学ぶのに最適なフィールドミュージアムです。

参考文献 岸由二『流域地図』の作り方 川から地球を考える』ちくまプリマー新書



千葉興銀 eco フェス in 印旛沼」の実施のお手伝い

株式会社千葉興業銀行（以下、興銀さん）さんは、このほど NPO 環境パートナーシップちばの賛助会員になってくださいました。多様な主体とパートナーシップを組むことは環パちばとして大変重要なことで、特に企業の方に会員になっていただけたのは、とてもうれしいことです。

そして早速、中間支援の一つとして興銀さんの活動のお手伝いをさせていただくことができました。興銀さんが示された「SDGs、環境保全、生物多様性」というキーワードの具体化として、まず最初に、行員さん（+ご家族）向けに、印旛沼で生物多様性を考えながらゴミ拾い、というイベントを環パがお手伝いしながら企画し、2024年3月16日に実施しました。

3月はお天気が定まらない時期なのでちょっと心配しましたが、当日は汗ばむくらいの温かな良いお天気でした。10時に集合し、挨拶やスケジュール確認の後、まず小倉から、印旛沼や印旛沼

の生態系について簡単な説明をさせていただきました。ご家族での参加も多かったため、ごく簡単な話にとどめましたが、みなさんは熱心に聴いてくださいました。

メインイベントは、印旛沼湖畔のごみ拾い。幸か不幸か、落ちていたゴミは少なかったのですが、大人も子どもも熱心にごみを探しました。

集めたごみの袋の前と、風車を背景にした2回の記念撮影を行い、お弁当と千葉興銀のマスコットキャラクター『ちばコーギー』がついたお弁当バッグをご褒美にいただいて、イベントはなごやかに終了しました。

興銀さんはこの日をキックオフとして、これからも印旛沼（流域）で生物多様性保全の活動を展開されるとのことで、環パちばとしても、できるだけ一緒させていただきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

（文責：小倉 久子）

千葉市立稲毛二小がバイオコン2023で国土交通大臣賞を受賞！

横田耕明さんが手がけていらっしゃる千葉市立稲毛第二小学校のビオトープが、日本生態系協会主催の「全国学校・園庭ビオトープコンクール2023」でみごと国土交通大臣賞に輝いた、というので、2024年2月4日に東京国立博物館平成館大講堂で行われた発表大会を聴きに行ってきました。

国土交通大臣賞というのは、「特に人と自然が共存するまちづくりに繋がる点が秀でているもの」というコンセプトで選ばれ、その他に文部科学大臣賞：体験活動や学習活動の内容・成果で秀でているもの、環境大臣賞：野生の生きものが棲むビオトープの質で秀でているもの、ドイツ大使館賞：ユニークな学習・体験活動を行っているもの、日本生態系協会会長賞：地域とのパートナーシップの観点で秀でているもの、に選ばれた上位5団体が表彰されました。

元々あった自然を活用して学校ビオトープを作っている団体が多い中で、稲毛二小のビオトープは、海岸を埋め立てた自然度ゼロの地域にある校庭の片隅に、少しずつ時間をかけて本物の自然を育てて出来上がったものです。しかも、作り上げてすぐの2002年3月にこのコンクールで文部科学大臣賞を受賞してから、何度かのいろいろな危機を乗り越えながら現在までしっかりと育ち続けているのです。

この20年余りの間に育ったのは「いのちの森」の樹々だけではありません。いのちの森で学び遊んだ子供たち、地域の方たち、そして何より、学校に受け入れられて、学校の宝として授業にもしっかり取り入れていただけている様子を発表を見て、単なる傍観者ながら、感無量でした。

（文責：小倉 久子）



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 72 —

おききました！ この人・この団体

岩井駅前交流拠点 boccs（ボックス） ～南房総と世界を結び、共創を育む～

<https://boccs.jp/>



今回は、当会の事業「SDGs・ESDをひろげる拠点づくり」のメンバーで、南房総市岩井駅のすぐそばで活動されている「岩井駅前交流拠点 boccs（ボックス）」さん取材しました。

boccs 主催者のひとり、相川千晶さんが当会事業の2020年の「SDGs・ESD人材育成事業」のESDプログラムづくりに参加されたのがきっかけでした。いつも穏やかな優しさがある中에서도、的確で鋭い質問をされる、とても素敵な女性だったという印象があります。

2022年度に開催したESDプログラム体験会では「五感を感じる森林浴 inner journey」の講師をしていただきました。内容は、南房総市大房岬自然公園で、大房岬の森林・浜辺などで森林浴を体験して五感で体感する。「自然が特別な場所ではなく、常にあるという認識から、自然環境問題にも自分ごととして目を向ける」がテーマでした。

その後は、「SDGs・ESDを広げる拠点づくり」で南房総市周辺の南拠点の会のメンバーとしても関わられ、地域の方と繋ぐなど活動されています。boccs 主催者であるご主人相川様も南拠点の会にも参加されてきました。

今回は、お二人の活動の場「boccs」について紹介いたします。

岩井駅前交流拠点 boccs（ボックス）は、千葉県南房総市・岩井駅前の多目的交流施設です。具体的な活動は、以下3つを柱に活動を展開されています。

- ・**地域と繋がる**：南房総を訪れる方を対象に、名所やコミュニティ・開催中のイベントの紹介、観光ツアー・体験プログラムの案内、名産品の販売などを行い、地域の魅力を伝えます。
- ・**世界を広げる**：子どもから高齢者までを対象に、探究型学習塾・IT・プログラミング・英語・音楽・デザインなどの教室・ワークショップを運営し、多様な学びの機会を提供します。
- ・**共創する**：講演会・音楽ライブ・展示会・映画上映会・フリーマーケットなどのイベントを企画・開催し、地域や世代を超えた交流・共創の「触媒」となる場所を目指します。

2022年の夏、SDGsワークショップ（映画『プラスチックの海』上映会&ビーチクリーン体験）にオンラインで参加したことがありました。オンライン参加者は、上映と感想などのふり返りのみでしたが、会場には親子の参加者も多く、子どもも大人も素直に感想を言い合える場となっていました。ある中学生からは「マイクロプラスチック問題を解決する手段として技術の開発に興味を持った」と、今後に期待したい意見もありました。

boccsは、軒下（のきのした）フリーマーケットや「英語でお話会」「上映会」など多くの事業を展開されています。まさに地域を繋ぐ拠点ですね。

詳細は、ホームページ <https://boccs.jp/> をご覧ください。開催報告はブログに掲載されていて、充実しています。

近くの方や南房総市方面に行かれる方、ぜひ、岩井駅前交流拠点 boccs へお立ち寄りください。アクセスは、<https://boccs.jp/access-contact/>（文責：桑波田和子）



（授業風景）



（ビーチクリーン
の様子）

プラスチックの海ワークショップ

運営会議報告

2月度運営会議

2月8日(木) 20:00~21:30

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・SDGs 学生フォーラム in ちば 1/12 2/5
- ・韓国より訪問 1/22
- ・印旛沼環境基金報告会 1/23
- ・第3回理事会開催 1/29
- ・若者が主役の環境活動応援事業 2/18 下見
- ・だより 155号 ニュースレター 発送
- ・ESD 地域リーダー研修会開催 2/3、4
- ・いちば環境フェスタ実行委員会 1/25

【協議】

- ・だより 156号
- ・エコメッセ2023in ちば
- ・若者が主役の環境活動応援事業 2/18
- ・千葉興銀との連携 3/16
- ・印旛沼環境基金事業
- ・地球環境基金事業
- ・2024年度総会 5/26 他

3月度運営会議

3月14日(木) 20:00~22:00

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・SDGs 学生フォーラム in ちば開催 2/18
- ・若者が主役の環境活動応援事業 2/18
- ・印旛沼環境基金実勢報告書提出
- ・地球環境基金事業
- ESD プログラム体験会 2/25 3/3
- 第3回コア拠点づくり会議
- SDGs・ESD 公開フォーラム開催 3/9
- ・いちば環境フェスタ実行委員会 3/5

【協議】

- ・だより 156号
- ・若者が主役の環境活動応援事業 事業まとめ 応募
- ・千葉興銀との連携 3/16
- ・地球環境基金事業 プログラムハンドブック作成
- ・ニュースレター発行
- ・2024年度総会 5/26
- ・第4回理事会開催 (3月) 他

お知らせ

【第9回いちば環境フェスタ開催】

趣旨 「いちば環境フェスタ」は、市民一人ひとりが環境保全及び3Rの推進等、環境に対する理解と関心を深め、環境にやさしい行動を率先して実行するきっかけを提供することを目的とするものです。

開催日時及び会場

(屋内)：令和6年6月3日(月)~8日(土)
 (初日は午前12時から、最終日は午後3時まで)
 (屋内会場)：アリオ市原1階サンシャインコート
 (屋外)：令和6年6月8日(土) 午前10時~午後3時
 (屋外会場)：アリオ市原1階サンシャインコート
 及びサンシャインアベニュー

主催：いちば環境フェスタ実行委員会・市原市

【第7回通常総会ご案内】

NP0 環パちば第7回(令和6年度)通常総会を以下の日程で開催します。

会場(30名)とオンラインで開催します。
 正会員のみなさまには、4月末に詳細をご案内させていただきます。

開催日時：令和6年5月26日(日)
 13時30分~15時

開催場所：千葉市生涯学習センター 研修室3
 (千葉市中央区弁天 3-7-7)、
 オンライン

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel : 090-8116-4633 E-mail : info@kanpachiba.com

ホームページ : <https://kanpachiba.com/>

※会費や会員申し込みなどの情報は上記HPでご確認ください。